

「平成 30 年度全国学力・学習状況調査」の結果概要

☎ 学校教育課 ☎ 内線 347

今年 4 月、全国の小学校 6 年生・中学校 3 年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査では、国語と算数・数学、理科の 3 教科の学力調査と、学習・生活に関するアンケート形式の「児童生徒質問紙調査」が行われました。

この調査は、全国の児童生徒の学力や学習状況を把握、分析し、教育に関する成果と課題を検証することにより、その改善を図るためのものです。

調査結果をもとに、松浦市の子どもたちの学力と学習状況の現状および課題についてお知らせします。

【学力調査の結果】

	小学校	中学校
国語	A・B 問題ともに全国平均を下回っています。 ○物語を読んで登場人物の心情を読み取ることはできています。 ▽文章全体の構成の効果を考えて書くことについて課題があります。	B 問題については全国平均並みです。 ○文章の内容から情報を整理して読み取ることについて全国を上回りました。 ▽文章を読んでわかることについて、内容を整理して書くことに課題があります。
算数・数学	A・B 問題ともに全国平均を下回っています。 ○割合を求める問題で数量の関係を数直線に表すことについては、全国平均を上回りました。 ▽グラフから情報を多様に読み取り説明することに課題があります。(問題例参照)	A・B 問題ともに全国平均を下回っています。 ○回転した図形をかくことや立体図形における平行な辺を書くことなど図形に関することについては概ね良好です。 ▽一次関数の問題に課題があります。
理科	全国平均を下回っていますが、知識については全国並みです。 ○物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことについての理解は全国を上回りました。 ▽実験の結果から言えることを文章として記述することに課題があります。	全国平均を上回っています。 ○すべての領域において知識の面では全国平均を上回っています。 ▽実験結果をもとに科学的に探究し、原因をつきとめることについて課題があります。

【問題例】 小学校 算数 B 問題 (小学校 3 年生で学習する内容『棒グラフと表』 数学的な考え方をみる問題)

(趣旨) メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け、総数や変化に着目して言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

3 おりさんたちの学校は、「進んであいさつをする」と「本をよく読む」の 2 つのめあてに取り組んでいます。

おりさんたちは、7 月と 12 月に、2 つのめあてについて全校児童 625 人に対してアンケート調査をし、その結果を下のグラフに表しました。

おりさんは、グラフからわかることを 2 つのメモに書きました。

2つのめあてについて「取り組んだ」と答えた人数

めあて	7月	12月
進んであいさつをする	約 570 人	約 50 人
本をよく読む	約 550 人	約 200 人

メモ 1

- 「進んであいさつをする」約 570 人
- 「本をよく読む」約 550 人

メモ 2

- 「進んであいさつをする」約 50 人
- 「本をよく読む」約 200 人

えりかさんとまさるさんは、しおりさんが書いたメモについて話し合っています。

えりか: メモ 1 を見ると「進んであいさつをする」のほうが人数が多いです。でも、メモ 2 を見ると「本をよく読む」のほうが人数が多いですね。

まさる: メモ 1 では、「進んであいさつをする」のほうが人数が多く、メモ 2 では、「本をよく読む」のほうが人数が多いのは、なぜですか。

しおり: メモ 1 とメモ 2 は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書いているからです。

しおりさんが言うように、メモ 1 とメモ 2 は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書かれています。

(1) メモ 1 とメモ 2 は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれていますか。それぞれ着目していることを、言葉や数を使って書きましょう。

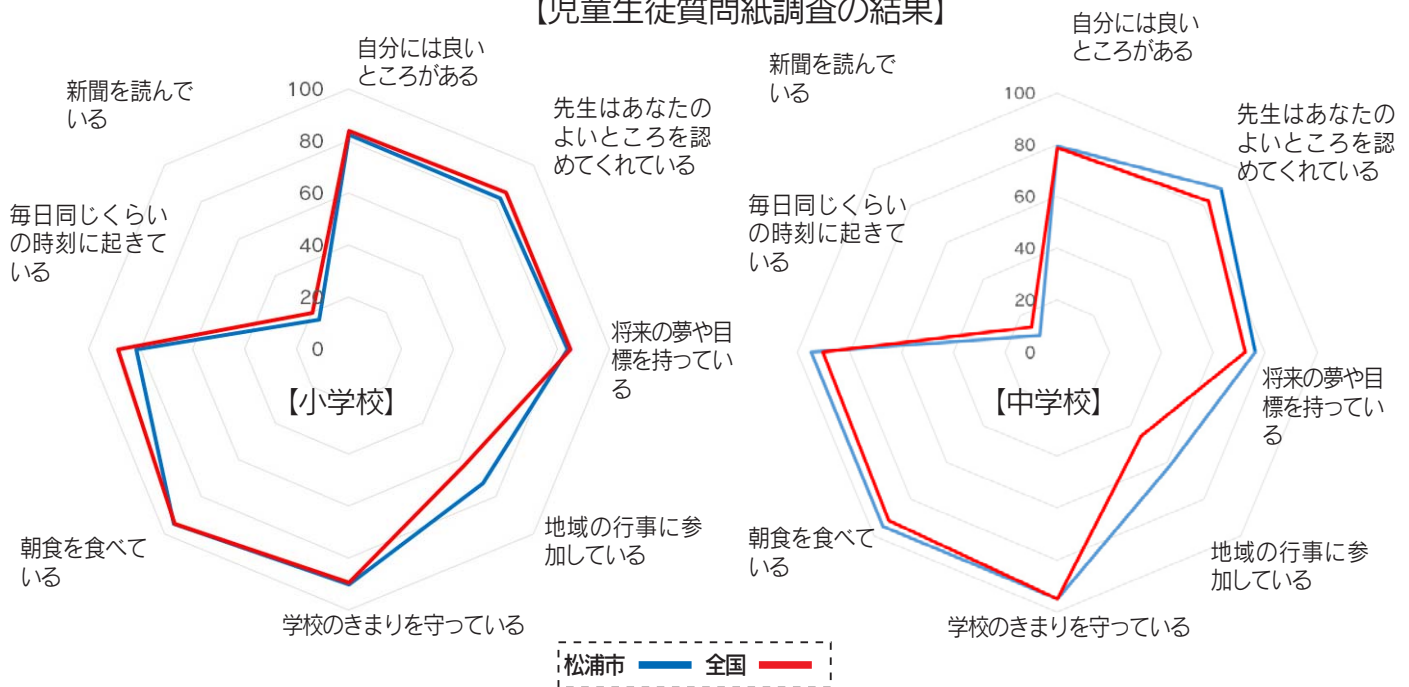
(正答例)
メモ 1 は、12 月の人数に着目して書かれていて、メモ 2 は 7 月の人数と 12 月の人数の差に着目して書かれています。

この問題例のように、どの教科においても、必要な情報を選び、考えを整理してまとめる力をつける必要があります。

これからの子どもたちには、習得した知識や技能を生活に生かす力をつけることが求められています。



【児童生徒質問紙調査の結果】



起床時刻や朝食を摂るなどの基本的な生活習慣については、一部全国を下回るものの高い数値となっています。自己肯定感については、自分にはよいところがあると回答した児童生徒の割合は概ね良好です。学校のきまりを守っている割合が高く、このことは学力向上のために必要な要素です。地域の行事に参加している割合は全国に比べて高く、子どもたちが地域の中で育っていると感じます。改善を図るべき点としては、全国的にも低い傾向にある、新聞を読むことです。市内各小中学校では、児童生徒用の新聞を購入し、設置していますので、積極的に読むようにしてほしいと思います。

教育委員会の取り組み

【松浦市学力テストの実施】

松浦市独自で、小学校2年生から中学校2年生を対象にした「松浦市学力調査」を12月に実施し、児童生徒一人一人の課題に応じた個別指導を充実させます。

【松浦市研究指定校】

星鹿小学校、御厨中学校を2年間の市の研究校に指定し、学習指導等についての研究を行い、市内の学校に公表し、市全体で学力向上を目指します。

【図書館教育の充実】

蔵書率100%の早期実現を目指し、学校図書館の充実を図ります。また、図書支援員を配置し、読書環境、学びの環境を整えます。

【松浦市の児童生徒の学力向上を図る授業づくり研修会の実施】

すべての小、中学校で作成している「学力向上に向けた取組の実践」を活用し、児童生徒が、「できた」「わかった」といえる授業づくりを推進するとともに、市内教職員の指導力向上を目指して、授業づくりについての研修会を企画、実施しています。



学校・家庭・地域

松浦市では今後も、子どもたちの生きる力を育むために学校を支援し、学力向上に向けて課題改善のための方策に取り組んでまいります。また、学力向上のためには、ご家庭において『生活リズムを整えること』、『家庭学習の確認』、『家族でのコミュニケーション』も大変重要です。

市民の皆さまにも、引き続き、子どもたちの健やかな成長のために、地域の子育て支援や学校での教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。